

特別頒布対象図録

令和2年2月8日現在

図 録	発行年月日	定価	特別頒布価格
日蘭交流400年記念特別展	12. 2. 27	2,000	1,000
今日のオランダ王室の祖、ウィレム5世の時代である、18世紀後期に花開いた、優美かつ端正なオランダ宮廷文化の美の精華を、絵画や様々な工芸品を通して、ご紹介しています。			
明治美術再見IV	13. 1. 13	1,500	750
洋画家・山本芳翠の油彩作品を中心に、高橋由一、五姓田吉松など、明治初期から中期にかけての主要な洋画家たちの諸作と、これまで公開されていない三の丸尚蔵館収蔵の明治期記録写真とを、写実的な記録性に焦点を当ててご紹介しています。			
工芸風土記 式一木・竹・漆工の世界	15. 7. 5	1,500	750
木・竹・漆の三分野の工芸作品を特集してご紹介しています。 木工は、桑や黄楊 ^{つげ} の良材産地の三宅島・御蔵島産を使用の指物や櫛及び明治期以降富山に伝えられた木象嵌による作品、竹工は、飯塚琅玕齋 ^{ろうかんさい} の作品も含め、大正十年代から昭和初期にかけて制作された花籠の数々、漆工は、津軽の変わり塗、会津や金沢の蒔絵をはじめ香川、久留米、沖縄などの多彩な技法による作品です。			
贈るころ・受けとられた美	17. 1. 8	1,500	750
皇室が世界の国々とのご交際に際し、増進を受けられた品々を、ご紹介しています。ヨーロッパの絵画、彫刻、ガラスや陶磁器などの工芸品、タイの金工品や漆工品、トルコの刺繍作品などのほか、アメジストや銀の小箱、ブローチなどの装飾品も含まれています。			
官展を彩った名品・話題作	17. 7. 23	1,800	900
三の丸尚蔵館収蔵の、かつての官設美術展覧会で発表時に高い評価を受けた、大正から昭和にかけての選りすぐりの絵画作品、工芸品の数々を、ご紹介しています。			
香淳皇后の御絵と画伯たち	19. 3. 27	1,500	750
香淳皇后(昭和天皇の皇后)は、高取稚成、川合玉堂、前田青邨に日本画の指導を受けられ、多くの絵画作品を遺されました。この図録は、香淳皇后の御絵とともに三人の師の作品、ご親交のあった山口蓬春、奥村土牛両画伯の作品を、ご紹介しています。			
京焼多彩なりー明治から昭和へ	19. 7. 7	1,500	750
わが国の焼き物の中でも、京焼は華やかな意匠と繊細な絵付けによって親しまれています。三の丸尚蔵館収蔵の、三代清風與平、五代・六代清水六兵衛、楠部彌弍などの作品を中心に、多彩に展開してきた近現代の京焼を、ご紹介しています。			
祝美一大正期皇室御慶事の品々	19. 9. 29	1,500	750
大正時代は、慶祝の意をこめたさまざまな美術工芸品の制作が、最も充実した時期です。こうした大正期御慶事の際、奉祝のために制作され、献上された美術品の数々を通して、それらの意匠的特徴、これらにかかわった人々と時代の特徴等を、ご紹介しています。			
花ひらく個性、作家の時代	22. 3. 30	1,500	750
美術御奨励のため、皇室御下命による作品、御慶事の際のお祝いの品、各種展覧会に出品されお買い上げになられた作品など、大正から昭和期に活躍した、山口蓬春、横山大観、宇田荻邨、竹内栖鳳、高村光雲、河井寛次郎、板谷波山ほか多くの作家たちの作品を、ご紹介しています。			
近代の洋画家、創作の眼差し	22. 10. 30	1,600	800
明治期から昭和初期にかけてわが国に根付いた洋画を、描かれた主題に注目し、国内及び海外の風景を描いた作品、同時代の世相を写し取った作品、我が国の歴史を題材にした作品に分けて、ご紹介しています。			

若梅に撫子ー旧高松宮家と伝来の品々	25. 3. 26	1, 700	850
三の丸尚蔵館が旧高松宮家から御遺贈を受けた兩殿下にゆかりの深い品々の他、大正天皇、貞明皇后の御遺品や旧有栖川宮家から引き継がれた優品の数々を通して、兩殿下と美術の深いつながりについてご紹介しています。			
美を伝えゆくー名品に見る20年の歩み	25. 10. 12	1, 300	650
三の丸尚蔵館は、昭和天皇並びに香淳皇后、さらに旧秩父宮家及び旧高松宮家から寄贈された美術工芸品を調査研究し、保存しています。これまでに修理した名品の公開を通して、修理事業の意義及び技術をご紹介しています。			
華麗なる近代京焼ー有栖川宮家伝来、幹山伝七の逸品	26. 3. 21	1, 500	750
旧高松宮家から平成17年に御遺贈された美術工芸品の中に、幹山伝七による磁器製の和食器600点が含まれていました。幹山伝七(1821~90)は西洋顔料を積極的に取り入れ京焼に新風を吹き込みました。明治期の華麗なる和食器を通じて近代京焼の魅力をご紹介します。			
鳥の樂園ー多彩、多様な美の表現	27. 3. 21	1, 600	800
美しい宝石のような羽を持つ鳥や力強く空を自由に舞い飛ぶ鳥の姿に人々は古来より吉祥の意を見だしてきました。19世紀から現代までの国内外の鳥を主題とした数々の作品をご紹介します。			
1920s~30s モダンエイジー光と影の造形美	27. 9. 12	1, 700	850
各国に大きな傷跡を残した第一次世界大戦のあと、1920年代から30年代に光彩を放つ新しい芸術文化が開花しました。昭和天皇が大正10年にヨーロッパを歴訪され持ち帰られた品々を始め、日本の大正ロマン、昭和モダンとも呼ばれる同時代の作品をご紹介します。			
北欧の工芸ー自然が生み出す	28. 1. 9	1, 500	750
明治から昭和の時代に世界各国から皇室へ贈られた数多くの美術工芸品の中で、近年、北欧デザインと呼ばれて多くの人々に親しまれるようになった北欧の国々の工芸品に焦点を当て、その魅力と特徴をご紹介します。			
書之美、文字の巧み	28. 9. 17	2, 000	1, 000
中国の書聖・王羲之(おうぎし)の書に始まり、近代に至るまでの作品を通して、わが国の豊かな書、優れた文字の文化をご紹介します。			
寿ぎの品々を読み解く	29. 1. 7	1, 600	800
明治期以降、皇室の御慶事に際し、各方面からお祝いの品として、美術品の数々が献上されました。これらの品々に示された吉祥の主題が、新しい時代の感覚によってどのように表現されたのか、その造型美に注目しご紹介しています。			
名所絵から風景画へー情景との対話	29. 3. 25	2, 000	1, 000
四季山水に恵まれたわが国では、名所を題材にした名所絵や歌絵が人々に親しまれ、様々な変遷を遂げて、現在の風景画へと発展しました。自然観の形成と深く関わる名所絵から風景画まで、近世から近代にかけて描かれた作品をご紹介します。			

* 送料等については、頒布品のご紹介:図録のサイトをご確認下さい。